

老いを科学する

2022年1月23日

太田隆次

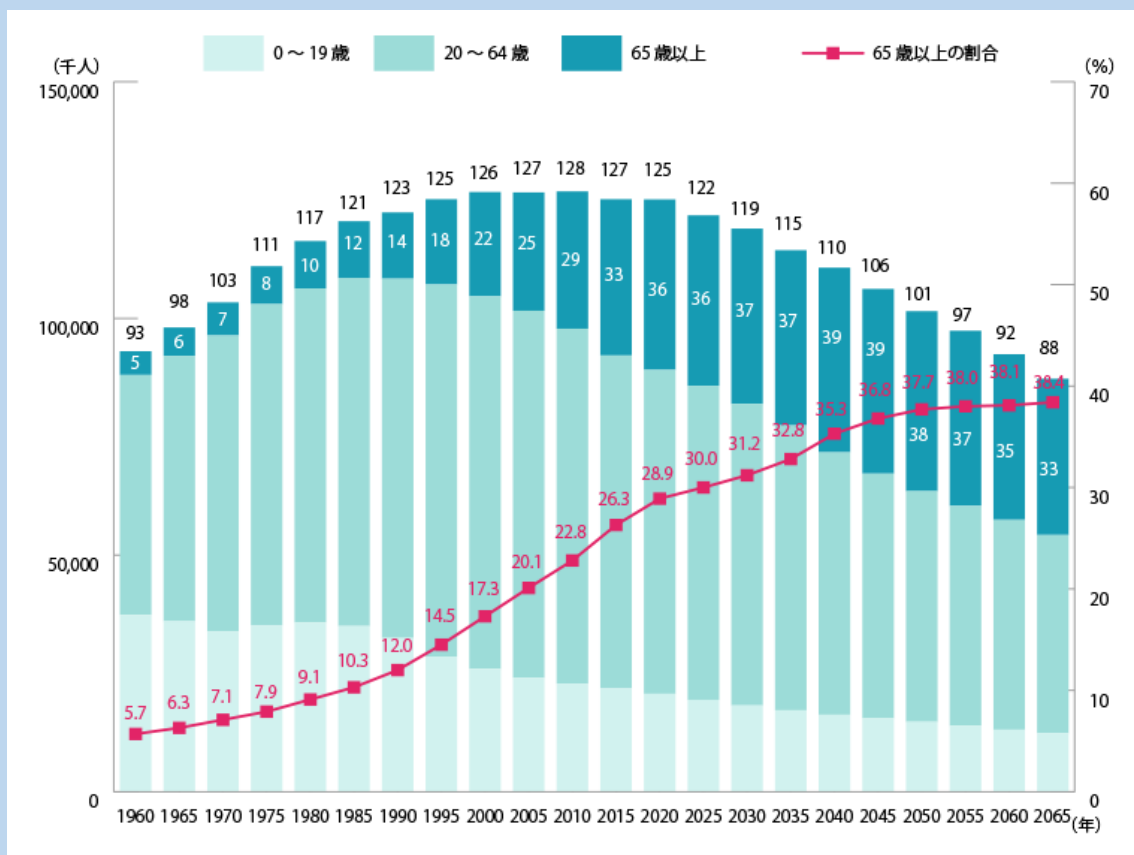
今月のテーマは「老いを畏れる」です。

それを「老いを科学する＝ジェロントロジーで正しく畏れる」と題して、現代と近未来の日本社会の「老いの傾向と対策」の提言をまとめてみました。

1. まず日本人の老いの傾向を見て下さい

1) 増え続ける65歳以上の人口

日本の総人口が減少を続ける中で、65歳以上の人口は増え続けています。総人口に占める65歳以上の人の割合（**高齢化率**）は上昇を続けており、**2025年には30%を超える**と予想されています。



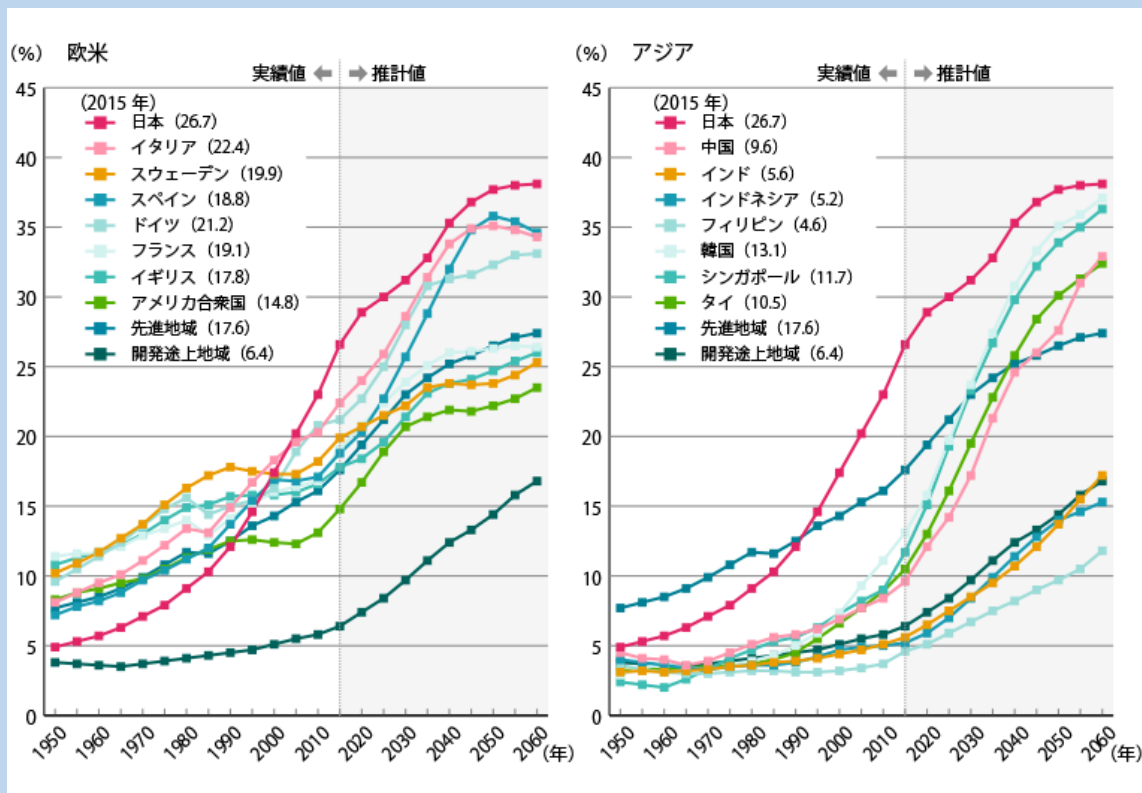
注 年齢(3区分)別人口の推移と将来推計

※ 数値データ出典: 国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集 2018 年版

2) 日本の高齢化率の先進国との比較—高すぎる！

この日本の高齢化率を先進諸国と比較してみると、1990 年代までは中位であったものが、2005 年にも最も高い水準となり、今後もその水準を維持していくことが予想されています。日本はダントツに高い！

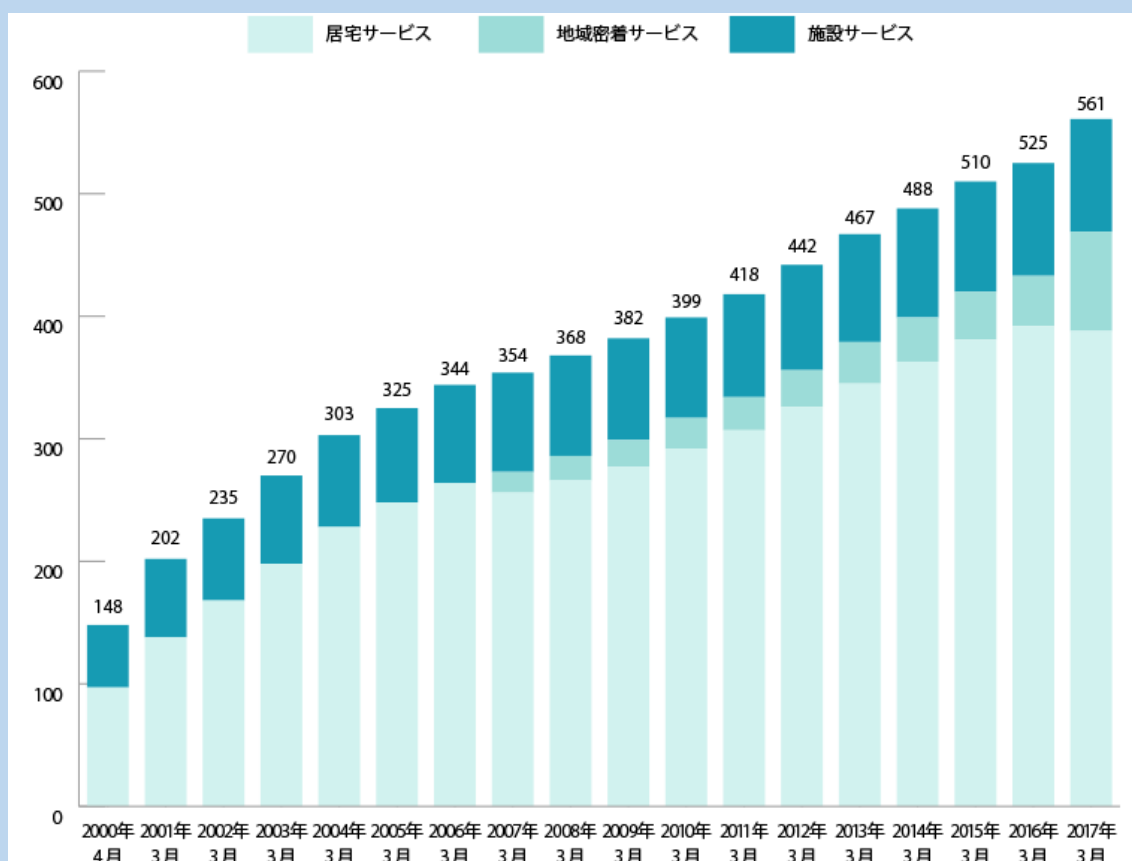
注: 世界の高齢化率の推移



- 資料出所: UN, World Population Prospects: The 2015 Revision ただし日本は、2015 年までは総務省「国勢調査」 2020 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 29 年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。
- (注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。 開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

3) 高齢化の進展に伴い、介護や支援を必要として介護保険を利用する人も急ピッチで増え続け、2017年3月時点では何と**561万人の人が介護保険を利用**しているのです。

介護保険利用者数推移（単位：万人）



2. 次に老いの対策です

1. これらの「高齢化の諸問題」を片づける

「ジェロントロジー」の登場です

耳慣れない「ジェロントロジー」（Gerontology）とは日本語で「老年学」「老人学」と訳され、1903年にフランスのパスツール研究所のメチニコフ博士が創作した新語で、Gerontとはギリシャ語で「老人」のことでそれに「学」

の意味の ology が合成されたものです。「老人に関するすべてのこと」を研究対象としています。

1930年以降、主にアメリカで発達し、現在、アメリカでは約250の大学、研究機関でジェロントロジーの研究や教育が行われています。

日本では1960年代から、日本老年学会を中心に導入が進められて来ました。私も1970年代にジェロントロジーなるものをはじめて学びました。以後、高齢者雇用、高齢者の福祉などの分野で重宝しています。

ジェロントロジーの広範な応用領域については、「東大高齢社会総合研究機構」の辻哲夫教授の「ジェロントロジーと地域社会」(JA共済総研セミナー 2010年3月12日開催)を下記URLでご参照下さい。

https://www.jkri.or.jp/PDF/2010/sogo_60_tsuji.pdf

2. 「老いの取り扱い説明書」です。

NEWTONの別冊です。アマゾンで注文すれば翌日に配達されます。税込み1780円です。



以上